

カウンセラーに聞いた
ホテルインターン Q&A

Q 英語力と経験は必要?
A 一部のホテルを除いて、渡航前に高い英語力や経験を求められることはありません。未経験でも挑戦できるのがこのプログラムの魅力でもあります。TOEICでは500点前後の応募者が多く、なかにはTOEIC350点で応募し、持ち前の積極性で乗り切った人もいます。基本的な接客ができれば、あとはむしろ明るさや前向きな人柄こそが強く求められるのです。

Q 滞在国やホテルは選べる?
A ご希望はうかがいますが、問題は応募と募集のタイミングが合うかどうか。ですから、滞在希望地にこだわっていない方のほうが、インターン先が早く決まる場合が多いです。受け入れ先の多くはアジア諸国の高級ホテルになります。英語圏やヨーロッパ圏でのインターンシップもありますが、相当の語学力や経験が要求されるため、難易度はかなり高くなります。

Q 賃金は支給されますか?
A 有給ではありませんが、アジア諸国のホテルでは月々2万~5万円程度のおこづかいが支給されます。食費や滞在費はホテルが負担してくれるうえ、物価が安いので、ほぼ全額を貯金に回す人もいるくらいです。なかには、プログラム費用の元がとれる方もいます。ただし、あくまでもお金为目的ではなく、経験を積むための研修であることは忘れてください。

藤井さんが利用した
手配会社
株式会社ホスピタリティ
トラジャルインターンシップ

トラジャルインターンシップで扱うインターンシップ・プログラムは、1年間で65万円。高級ホテル以外にも、クルーズや旅行会社など研修先は多数あり、自分に合った受け入れ先を紹介してもらえます。アジアのホテルの場合、宿泊、食事、おこづかいを提供してくれる受け入れ先がほとんどで、年間の費用は留学やワーキングホリデーの2分の1から3分の1で済むのが特徴だ。興味のある方は、無料説明会や個別カウンセリングを受けてみよう!

お問い合わせ先
1 03-5386-3081 (東京)
1 011-207-2888 (札幌)
www.trajal-internship.jp/
プログラム一括資料請求 NO.TRJ1999-43A

Advice from Yurika
経験のない業界への転職を目指すとき、インターンシップなら、その業界の仕事を一から学べます。周囲もそのつもりで受け入れて指導してくれるので心配はありません。また、日本の中にいるだけでは見えないことがたくさん見えてくる貴重な機会になりますよ。



4. オリジナル商品について、売れ筋をショップの店員に尋ねるなど、幅広い情報と知識はいつも身につけるよう努力している。5. フロント業務はシフト制。藤井さんは朝7時から午後3時までの勤務が多い。6. ゲストの送迎、アクティビティの予約確認など、関連部署とは連絡を密にとる。あらゆることを滞りなく進めるのがフロントの仕事だ。7. リゾート内は、専用のゴルフカートで移動。藤井さん自ら運転してゲストを案内することも



8. 覚えるまで何度でも、と使い込まれたテキストの数々。英語はさらに語彙を増やしてレベルアップ、インドネシア語も独学と実践で習得



9. 国や文化は違っても、ゲストをもてなす気持ちは同じ
9. リゾートホテルでの業務を一から教えてくれた上司と同僚達。何事も積極的に学ぶ藤井さんの姿勢が認められ、契約社員への道も開けた

ホテルでは英語が公用語だが、現地スタッフの会話はインドネシア語がほとんど。藤井さんは「文法もいまいけれど、言葉も少ないんですが」と笑いながら、行き交うスタッフに独学で学んだインドネシア語で話しかける。彼らは満面の笑みで藤井さんに答える。島という限られた住環境のなか、気さくな現地スタッフに友人も多い。ホテルのあらゆる部署との連携を図るうえで、物事がうまく進まないことがストレスとなり、壁にぶつかったこともあったが、そんなときこそ、日々培った人間関係に助けられたと振り返る。

「自分もOKで、相手もOKである環境を作ることが大切。いろんな人と働く場面、自分がしなやかにマッチできたら、常に私の人生の目標です」

現在、賞賛すべきスタッフとして、ゲストアンケートに名前を挙げてもらえることが何よりの励みだそう。近い将来、あこがれのクルーズ船での仕事に就きたいと考えている。「どちらに転んでもいい、一度しかない人生、チャレンジあるのみです」とさわやかに語ってくれた。

取材・文・撮影/桑島千春
取材協力/バンヤンツリー・ビタン (Banyan Tree Bintan)

Indonesia Bintan island
インドネシア
ビンタン島で
ホテルインターン

あこがれの南の島で働きながら、
ホスピタリティのプロを目指す



Profile
藤井百合香さん(29歳)
大学卒業後、養護学校で4年、定時制高校で2年間、理科の教師として働く。ホテル・サービス業界へ飛び込みたくて、南の島に暮らす夢もかなうホテルインターンシップに挑戦。半年のインターン期間終了後、バンヤンツリー・ビタンにて契約社員となる。

【インターン参加期間】
2009年4月~2009年11月

【出発前の英語力】
TOEIC 645点

【準備したこと】
苦手な英語をマスターするために大奮闘。教師を辞める半年前から、通勤時間を利用して英語のテープを聞いてリピートするなどの反復学習。英語の個人レッスンを週に1回受け続けた。

シンガポールから1時間足らず
ビンタン島の高級リゾート

1. リゾートの目の前に広がるコバルトブルーの海、浅瀬が続く静かな白いビーチ。手つかずの自然が美しい
2. 世界中に展開する高級リゾートのひとつ、バンヤンツリー・ビタン。環境にやさしいリゾート設計で、敷地内に自然木も多い
3. シンガポールの南東45km沖に位置するビンタン島への足はフェリー。シンガポールから50分ほどで到着



自分を見つめ直して気づいたこと
「人を笑顔にする仕事がしたい」
「人を笑顔にすることが私の喜び。それから、まだ行ったことのないところへ出かけたいことも好きなんです」

藤井百合香さんは、大学卒業後、養護学校や定時制高校の教師として、多忙ながらも充実した6年間を過ごす。しかし、体力的に限界を感じた頃、自分の好きなこと、やりたいことは何かを考えるようになった。やがてクルーズ船のスタッフになりたいと思った藤井さんだが、ホテル・サービス業界への転職には経験が必須だと悟る。いろいろと調べるなかで、親身に相談に乗ってくれる手配会社のカウンセラーに会い、一から学ぶつもりでインターンシップに参加することに決めた。語学が苦手だったという藤井さんは英語の猛特訓を開始し、6カ月後には東南アジアを中心に世界中で展開する高級リゾート「バンヤンツリー・ビタン」でインターンシップの機会を手に入れた。

藤井さんのポジションは、ジャパニーズリゾートホスト。日本人ゲストの対応に限らずフロント業務全般を担当する。

「最初は、先輩がフロントで使う英語の一言一句を書き留めて、暗唱できるまで練習しました」と振り返る。ゲストの要望が、滞りなく進むよう手配するのがフロントの仕事。あらゆる部署とコンタクトを取りながら臨機応変に対応していく。「ユリカが手配するなら準備万端だね」とフロントマネジャーに言われたのがとてもうれしかったと、今では責任ある仕事を任せられるまでに成長した南の島で充実ライフ。

鍵はスタッフとの人間関係